

## 平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

【学校像】伝統ある普通科高校として、以下の学校をめざす。

- ・希望に応じた進路実現をサポートする学校
- ・次代を担う志高くたくましい人材を育てる学校
- ・地域に信頼され誇りとされる学校

【育てる力】授業・学校行事・部活動・地域連携等を通じて、以下の力を育む。

- ・確かな学力とキャリア意識
- ・主体的に考え行動する力
- ・知徳体備わった豊かな人間性

## 2 中期的目標

## 1 学力向上と進路実現

(1) 新学習指導要領と本校の実情や将来像をふまえ、「確かな学力」の定着と主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の取組みを図る。

- ア 各教科の授業改善について「生徒の発言を引き出し、表現力を高める授業づくり」を共通目標として推進し、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」をバランスよく育成していくことをめざす。
- イ 教員の授業相互見学や研究授業の活性化などを通して、教科横断的な授業改善の取組みを充実させる。
- ウ 「学校教育自己診断」や「生徒の授業アンケート」等を利用して授業力向上に努め、生徒の授業充実度を向上させる。
- エ 全教室に設置された電子黒板を活用して視聴覚教材メニューの充実を図る。
- オ 学習ニーズの多様化をふまえた選択科目の充実をはかり、生徒の能力・適性、興味・関心、進路希望に応じて学習できる教育活動の展開に努める。

\* 「授業アンケート」の生徒の充実度（質問項目「興味・関心」「知識・技能」）について、1回目より2回目を0.02Pアップさせる。

(2) グローバル化や情報化社会に向けた国際的な視野をもとに英語コミュニケーション力を身に付けさせる。

- ア 「学習基礎」（毎朝のモジュール型学習：通称朝学）において、モジュールメディアステーション（一斉配信機能付き電子黒板）を活用して英語ディクテーションを中心とした学習で「聴き・書き取る英語力」と「集中力」を身につけさせる。
- イ 平成27年度学校経営推進費事業で支援された「英語多読・多聴ステーション」をさらに充実し発展させる。
- ウ 英語力の習得に特化した海外・校内語学研修の充実やスピーキングテストを実施することで、4技能を統合した発信する力を育成する。

(3) 生徒の進路希望を実現させる。

- ア 進路目標に応じたコース（文理系・文系・総合）の指導を強化し、講習・ガイダンス等の充実をはかるとともに、入試結果の実績維持・伸長をめざす。
- \* 学力生活実態調査（Bゾーン以上の成績を有する生徒が、学年の過半数）及び、英語学力調査（スコア430点）。
- \* 中堅・難関大学現役合格者数及びセンター試験出願者数が、平成31年度240名及び100名以上、令和2年度220名及び90名以上（3学年在籍生徒数が前年度より40人減）、令和3年度225名及び95名以上。

## 2 志学・総合学習（総合探究）の推進

(1) 校訓「自律・敬愛・共創」（平成30年7月設定）の志を持ったよき社会人として、多様な他者の考え方や生き方を相互に認め合いながら、新たな価値あるものを共に創り上げていく資質と能力を養うための志学・総合学習（総合探究）実施計画を推進する。

- ア 企画立案する志学総合推進チーム内の企画グループと実践グループが、志学・総合学習（総合探究）を推進していく。
- イ 志学総合推進チームは、分掌、委員会、教科、教員個人の実践やスキルの中から多くの効果的な情報を得て、より充実した取り組みになるよう企画立案・実践していく。
- ウ キャリア教育、ボランティア活動、ライフプラン作成等、各分野での実践を検証し、志学との相乗効果を図る。
- エ 人権教育、道徳教育を中心に、命の大切さを学び、自他を尊重する人権意識と、他者とよりよく生きるための基盤となる道徳性を養い、一人一人が将来に対する夢や希望を持ち、自らの人生や未来を切り拓いていく力を育む。

(2) 国際交流活動の充実を図る。

- ア 大阪観光局等と連携し、海外の高校生との交流を通じて国際理解を深め、コミュニケーション能力を高める。

(3) 読書活動の推進を図る。

- ア 図書館を中心に読書活動の推進を図る。

## 3 府民に信頼される魅力ある学校づくり

(1) 生徒指導・支援体制の確立（「自律・敬愛・共創」の志を育む）

- ア 支援相談委員会が、「高校生活支援カード」を活用して、支援を必要とする生徒等に対して、実態の把握と個別の支援策を考えると同時に、「個別の支援計画」を作成して支援していく。また、支援方法等の研修を行い、共通理解の促進と支援活動の充実を図る。
- イ 自治会活動に対する指導の充実を図り、文化祭、体育大会等の諸行事について生徒の主体性と自治運営力を向上させることで活性させ、充実感を育むとともに、地域や保護者との交流を深め、お互いの信頼関係を深める。
- ウ 生徒指導・支援のあらゆる場面において、生徒の自律（規範意識、マナー意識等）や、敬愛（あいさつ、思いやり等）する心を醸成する。また、遅刻数のさらなる減少、自転車事故等の防止に重点を置く。\*遅刻者数の前年度比からの減少をめざす。
- エ 部活動を推進し、バランスのとれた心身の成長と健全な人間関係を形成する力の育成を図る。

(2) 学校運営体制の強化

- ア 学校運営の機動性・円滑性を高めるため、組織力の強化を図る。
- イ 新任・若手教員、ミドルリーダーの育成を図る。
- ウ 働き方改革のとりくみとして業務の効率化を促進し、意識の改善を図る。

(3) 開かれた学校づくり

- ア より開かれた学校をめざし、積極的な情報提供や広報活動、ボランティア活動などを通して地域交流を展開していく。
- イ 令和4年の創立百周年記念事業に向けて「ALL ABENO 共創100周年伝統と志を地域とともに未来へ！」をスローガンに、生徒・保護者・教員・同窓会等オール阿倍野態勢で、さらなる進化発展（「めざす学校像・生徒像」と、地域や関係者からの高い評価をめざす。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年 10 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>「学校の楽しさ」について肯定値は保護者 84%に微増、生徒 85%と 5 ポイント向上。また「入学」の肯定値も、生徒 84%と 6 ポイント向上、保護者 90%と堅調維持。この 2 つの指標に加え「生徒の意見を聞いてくれる」の肯定値 85%と前年より 11 ポイントも向上（過去 5 年で最高値）。中でも 1 年生の肯定値 93%は出色。この 2 年間の対話と意見の涵養を企図した授業改革の成果を反映したものと推認。学校生活全般の魅力は堅持されている。</p> <p>【学習指導】教員の肯定値「指導方法の改善・工夫」が 97%から 82%に、また前回から新設した「生徒の発言を引き出し、表現力養成」については 92%から 76%に低下。「ICT の活用」も 58%と昨年比べて 4 ポイント低下した。昨年度開始したパッケージ研修 I の狙いを継続したため教員には昨年ほど強く意識されていないが、次年度は自己申告票における達成目標の一環に位置付け焦点化を図りたい。生徒の授業評価指標 5 項目（「意見発表機会」「工夫・分かりやすさ」「質問対応」「補講習充実」「ICT 機器等活用」）全て過去 5 年間で最高値。特に 1 年生では「意見発表機会」「ICT 機器等活用」が肯定値 90%超となり新科目「総合探求」に真摯に取り組んできた担任団の努力を如実に反映した数値と推認される。総じてこの 2 年間の授業改革の方向性が定着しつつあり生徒の高評価につながっているものといえよう。また「朝学習に意欲」を示す生徒は全体で 89%（6 ポイント上昇）に達し、1 年生に加え 2 年生でも 90%に到達、3 年生でも 86%。これは導入以来最高値である。学習意欲の維持向上に向けて各学年団において組織的に粘り強く指導している成果と言えよう。</p> <p>【生徒指導】「基本的生活習慣の確立」についての肯定値は教員 84%、生徒 88%（過去 5 年で最高値）、「生徒指導方針に理解」について保護者の肯定値 84%。遅刻指導をはじめ、服装やマナー指導については確立されており、学習環境を整え、社会性を身に付けさせるという趣旨も共通理解が得られていると判断。また、「教育相談体制」が整備されてきたと捉える教員は 82%（3 ポイント低下）、生徒の肯定値も「担任以外にも気軽に相談できる」68%（4 ポイント向上）「悩み等相談できる」76%（10 ポイント向上）と実態としては顕著に改善しつつあると言えるが、他方、「保護者との連携」について教職員の肯定値 84%（8 ポイント低下）、「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導」を重視する教員は 66%（8 ポイント低下）。保護者との学年別懇談会の実施や支援相談体制のより一層の充実を図るとともに、支援相談委員会の定例化及び実効性のある指導や支援の計画作成が求められる。</p> <p>【進路指導】「進路実現に向けて適切な情報提供がある」の生徒の肯定値が 85%（5 ポイント向上）、保護者が 81%（1 ポイント下降）と微増減したが一定の評価を維持している。また「きめ細かい指導」については、教員の肯定値が 84%と 8 ポイント低下したものの高水準を維持し、生徒の肯定値も 75%（5 ポイント向上）と引き続き改善傾向にある。双方の評価の差を埋めるべく、さらなる個に応じた進路指導の充実が求められる。</p> <p>【学校経営等】「適材適所の校内人事や勤労意欲」が 50%（9 ポイント低下）「分掌・学年間の連携」が 61%（8 ポイント低下）と減少に転じた。他方「各種会議が意思疎通・意見交換の場として有効に機能」が 50%（14 ポイント向上）。各組織構成や業務分担、組織間の意思疎通の在り方を改善したい。各組織内では報告・連絡・相談等きめ細かな情報の共有に留意しているので、今後は組織間の連携強化や管理職、企画経営会議等へのボトムアップ機能の向上を図る必要がある。「学校のホームページ閲覧」については保護者の肯定値 42%（1 ポイント向上）、保護者のメールマガジン閲覧は 58%（10 ポイント向上）。配信システムは改善されたが生徒・保護者の半数近くが未登録のまま。喫緊の課題である。次年度は安否確認の試行やリニューアルしたホームページとメルマガとのリンク付けにより生徒や保護者の利用頻度向上を図る。また、今年度特筆すべき指標として「清掃が行き届いた授業環境」生徒の肯定値 86%（21 ポイント向上）、「自治会行事の有意義な工夫」生徒の肯定値 94%（12 ポイント向上）が挙げられる。全学年が前者は 80%超、後者は 90%超（過去最高値）。いずれも大きな改善と評価。後者は独立した自治会指導部による生徒の主体性と「共創」を引き出す地道な取組の成果であり、今後も維持発展をめざしたい。</p>	<p>第 1 回（7/8）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の自主性と自尊感情を育成することはどの発達段階においても重要な課題。</li> <li>・学習時間の確保や学習規律の指導にあたり、どの学年でも統一した基準や取組が求められる。</li> </ul> <p>第 2 回（11/15）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学入試改革の柱である英語 4 技能、表現力を高めることは重要であり、施策は混乱しているが方向性としては間違っていないので、このまま取り組んでもらいたい。HPのリニューアルも評価できる。</li> </ul> <p>第 3 回（2/14）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織間及び保護者との連携は小中学校でも経営改善の大きな課題。</li> <li>・周年事業も経営改善のリソースにすべき。</li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価	
(1) 学力向上と進路実現	(1) 「確かな学力」の定着と授業改善 ア 授業改善と学力向上に向けた取り組みの強化	ア a 学習支援室と各教科が連携して、授業アンケート(年2回実施)、学校教育自己診断、相互授業見学等に取り組み、結果を総合的に分析し、課題を共有し、更なる授業改善を進める。 b ペップトーク、コーチング、ファシリテーション等について校内研修を通じて理解を深め、生徒の主体的な深い学びを引き出すスキルの向上を図る。 c 土曜学習会、補習、講習等学習支援の取組みを充実させる。	ア a 学校教育自己診断(以下「アンケート」と記載)による経年比較した生徒満足度、「わかりやすい授業・教え方に工夫」(前年75%)以上、教員のICT活用率(前年62%)以上をめざす。 b 経験の少ない教員をはじめ、各教科や校内で授業研究等年1回以上の実施。 c 「土曜学習会」参加者数平均150名。(前年平均135名)	ア a 「分かりやすい授業等」78% (○) 「ICT活用」58% (△) 多様な活用法の共有化を図る要在り。 b パッケージ研修研究授業5回含め各教科で公開授業複数回実施(◎) c 参加者数平均131名(△)。雨天時開催による影響有。	
	イ 新教育課程の取り組み	イ a 「将来構想委員会(仮称)」を中心に、新カリキュラムの検討や学習面、進路面での諸課題に迅速に対応する。 b 「主体的で対話的な深い学び」の実現に向けて、各教科の授業において定期的に論理的なディスカッション活動を導入する。	イ a 学習指導要領改訂を見据えた授業改善に係る会議を月1回以上開催。 b ・科目の特性に応じて、単元毎に最低1回以上、意見交換や意見発表等を実施。 ・アンケート(生徒)で「生徒の意見受容や発表」に係る肯定率6割以上。	イ a パッ研WG、将来構想検討会議等月1回以上実施(○) b 「生徒の意見を聞いてくれる」85% 「授業で意見を発表する」84%。管理職授業見学で教員の約7割が意見を引き出す言語活動設定(○)	
	(2) 次社会に向けた力の育成				
	ウ 英語力、コミュニケーション力の育成	ウ a 「学習基礎」(朝学)については、モジュメディアステーションの活用による英語ディクテーション学習を計画し、「みる」「きく」等の感覚機能を活性化し、脳トレーニングを毎日実施する。 b 英語科授業での「多読・多聴活動」を推進する。 c 英語4技能のうち「話す」能力の向上をめざした短期語学研修や校内イングリッシュ研修やスピーキングテスト等、特別な取組みを計画して実施する。	ウ a 一斉映像配信英語教材の研究と作成。アンケート(生徒)での取組み意識の肯定率70%以上をめざす。 b 語数2.3年4万語、1年3万語 c ・全生徒対象のスピーキングテストを年1回以上実施。 ・海外英会話研修への参加15名以上。 ・校内英会話研修への参加15名以上。 ・短期語学研修の授業内容の改善、英語研修の割合9割(29年度まで6割)。	ウ a 「朝学に意欲」の肯定率89%(◎)過去最高値。本校の特色であり進路実現にも寄与する取組みなので堅持したい。b 2年41162語、1年30041語(○) c 全生徒1回(1年生2回)実施(◎) セブ島語学研修23名(◎)校内英会話研修1年生300名超(◎)英語研修割合9割超(○)英語力強化の意識付は生徒間に定着傾向。	
	(3) 進路実現に向けての取組み				
	エ 進路指導				
	オ 生徒へのガイダンス機能の充実	エ a 新教育課程における進路目標に基づいて、進路指導の方針を確立する。その中で「進学講習」「学習キャンペーン」等を推進し、質的・量的な充実を図る。 b 進路指導部と連携し阿倍高塾の授業内容の充実と映像教材の指導充実を図る。 c 入学時の学力の維持・向上に努めることを目標として、学力生活実態調査、英語学力調査等を用い、進路実現を図る。 オ 学習ガイダンス、進路ガイダンス機能を充実させる。(選択科目説明会・進路別説明会・学問別説明会等の充実) a 年度当初に保護者の進路情報ニーズをきめ細かく把握する。 b 3年次への進級に先立ち、2年次3学期に、センター試験受験の意義や効果的な受験対策について情報提供を行う。	エ a 平日の家庭学習時間60分以上の生徒の総数が学年総数の過半数を占めること。(前年44%) b 阿倍高塾の生徒満足度60%の維持。(前年63%) c ・学力生活実態調査等の成績の経年比較とBゾーン以上の成績を有する生徒の総数が学年総数の過半を占めること。(前年47%) ・英語学力調査トータルスコア430。(前年.411) ・中堅・難関大学合格者数の230名達成。(前年.215) オ a ・各説明会等での生徒および保護者の事後の感想等の検証を経て、充実・改善を進める。 ・アンケート(生徒)「進路指導・情報提供に関する肯定値」80%の維持向上。 b ・センター試験出願者数割合28%以上。(前年.28%)	エ a 家庭学習時間60分以上約50%(○) b 満足度63.7%(○) c ・Bゾーン65%(◎) ・英語スコア421(△)2年次の学習意欲の低下抑止が課題。 ・中堅等大学合格者数405人(◎) オ a 「進路情報提供」肯定値85%(○) b センター試験出願者数割合37%(◎)一般入試まで諦めずに希望進路実現をめざす生徒の意識付が進んでいる。	

府立阿倍野高等学校

<p>(2) 志学・総合学習(探究)の推進</p>	<p>(1) 志学、人権・道徳教育、総合学習(総合探究)を総合的に行う実施計画の推進 ア 総合的に行える組織の充実 イ 新学習指導要領を踏まえた取り組みの充実 ウ 美化活動 エ 人権・道徳教育 (2) 国際交流活動の充実 オ 外国人生徒受入れ等 (3) 読書活動の推進 カ 図書館活動の充実</p>	<p>ア a 志学、人権・道徳、総合学習(総合探究)各委員会で、学年と連携して新学習指導要領を踏まえた指導内容を充実する。 b 総合学習(総合探究)でキャリア教育の取り組みを計画的に推進する。 イ これまでの取組の検証を踏まえて、引き続き、芸術鑑賞、人権講演会、美化活動、挨拶キャンペーン、志学の川柳募集などを企画し、その充実を図る。 ウ 「花いっぱい为学校・日本一きれいな学校」を目標に、校内や周辺地域のボランティア美化活動をより推進する。 エ 人権教育、道徳教育推進計画を作成する。 オ 国際交流委員会の活性化を図り、積極的に外国人短期研修等を受入れる。 カ 図書館を中心に読書・学習活動の推進を図り、読書習慣を身につける取組みを実施するとともにビブリオバトル(トーク)の推進を図る。</p>	<p>ア a 系統立てたキャリア学習を計画する。 ・アンケート(教員)「キャリア教育」肯定値(前年67%)の維持。 b 月1回以上、生徒間の議論を組み込んだ志学等を実施する。 イ a アンケート(生徒)「豊かな心や生き方について考える機会がある」1年肯定値70%の維持。 b 学校協議会委員やPTA実行委員による点検評価を受け、目標肯定値7割以上。 ウ 年間2回の花植え替え作業(PTA協働) エ 年間計画表作成 オ ・教員及び生徒の委員会の定期的開催年8回の維持。(前年8回) カ ・図書館だよりの定期的な発行(前年6回を維持する) ・年間貸出し冊数一人1冊以上をめざす。</p>	<p>ア a 「キャリア教育」肯定値45%(△) b 1年総合探究ではほぼ毎週議論等設定(◎)他学年の取組みへの波及を図りたい。 イ a 「生き方考える」肯定値1年82%全体73%(◎) ウ b 美化、環境整備肯定値86%(◎) エ 年間計画表作成(○) オ 生徒実行委員会8回開催(○)生徒集団の更新と主軸となる教員の養成が課題。 カ 定期発行5回維持(○)貸出冊数1050冊(○)活発な啓発活動により読書意欲のある生徒は増加傾向。</p>
<p>(3) 府民に信頼される魅力ある学校づくり</p>	<p>(1) 安全で安心な学校づくりと意欲ある学校生活 ア 支援相談委員会の充実 イ 生徒支援室関連業務の充実 ウ 美化関係業務の充実 エ 部活動の充実 (2) 学校運営体制の強化 オ 組織力の強化 カ 教員の育成 キ 働き方改革 (3) 開かれた学校づくり ク 保護者や地域への情報提供 ケ 中学校への広報 コ 地域連携</p>	<p>生徒満足度の向上を図るべく授業と学校行事、生徒支援の各面でより一層生徒の主体性を育み、意欲ある学校生活を促す。 ア 支援相談委員会を充実させ、必要に応じてケース会議等を開催し、生徒支援の充実を図る。また、SCのカウンセリングマインドに関する研修を計画し、スキルを向上させる。 イ a 自治会活動の一層の活性を図る。生徒の主体性と自治運営力を向上させ、各行事の進化、発展をめざす。 b 遅刻指導を徹底する。 c 安全な通学、特に自転車通学の事故防止のための巡回指導やカッパ着用指導を充実させる。 d 風紀委員の役割の充実。(挨拶・自転車駐輪指導等) e 生徒の健康管理の意識を高める。 f 自治会とともに学校食堂の魅力の向上を図る。 ウ a 年3回の安全点検を実施し、危険を排除する。 b 清掃が行き届く分担場所の工夫と清掃の確実な実施。 c 生徒自治会を主体にクリーンキャンペーンを実施し、校内美化活動を通して愛校心と仲間意識を育む。 エ 大阪府運動部活動の在り方に関する方針の主旨を踏まえ、バランスのとれた部活動を推進する。 オ 教職員全体のチーム意識を高めるなど組織力の強化を図る。 カ 若手養成講座の開催。 キ 全校一斉退庁日及びノークラブデーの実施、長時間労働削減のための業務効率化と意識改革を図る。 ク ホームページ、メールマガジンシステムの改新と充実を図る。 ケ 広報活動の展開を図る。 コ 中学校訪問の戦略化を図る。 家庭科選択生徒や部活動生徒、有志生徒中心に地域行事やボランティア活動に取り組むことにより地域との交流を深める。</p>	<p>ア 自己診断の「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定値(前年66%→)70%への向上をめざす。 イ a 各行事で生徒アンケートを実施。生徒満足度、(前年)82%の維持(体育大会、文化祭)。 b 遅刻者数→年間1人1.5回以内をめざす。 c 自転車通学生徒の交通法規遵守、マナーの向上、カッパ着用指導。→年間事故件数、各学年1件以内をめざす。 d 自転車駐輪に関する苦情件数0をめざす。 e 保健HRの実施を行い、年間1回以上危険薬物についての知識を高める。 f 食堂利用生徒の満足度を向上させる。 ウ a 安全点検やアンケート(保護者)を実施し、問題点は速やかに改善する。保護者からの指摘件数0件をめざす。 b 学校教育自己診断「清掃がいきとどいて」の肯定値(前年65%)→70%への向上。 c クリーンキャンペーンへの参加者数260人維持。 エ 適切な休養日及び活動時間の設定に基づいた年間計画表の提出。 オ アンケート(教員)「校内人事、校内連携、教職員間の意思疎通」平均60%への向上。 カ アンケート(教員)「初任者等、経験の少ない教職員を学校全体で育成する体制がとれている」(前年69%)の向上。 キ 業務効率化・意識改善・相互支援についての研修を各学期中に1回実施。 ク アンケート(保護者)「学校のHPをよく見る」肯定値(前年)41%維持向上。 ケ 中学校訪問数(30年度70校)を精査し近隣中学校を中心に情報、資料等を用い、より丁寧な訪問を計画し実行する。 コ 他校種や地域の方との交流回数10回以上をめざす。</p>	<p>ア 「悩み相談」肯定値76%(◎)1年生は83%) イ a 行事生徒満足度94%(◎)自治会指導体制の充実が奏功 b 1人1.9回超過(△)3年生の規範意識に課題。 c 年間2件(○) d 駐輪苦情件数0件(○) e 全学年対象に実施(○) f 食堂品目改善を要望(△)自治会の生徒要望集約が必要 ウ a 指摘件数0件(○) b 86%(◎) c 350人(◎) エ 全部活動で適切な年間計画作成(○) オ 平均54%(△)企画経営会議の活性化が課題。 カ 「初任者等育成体制」肯定値53%(△)OJTによる組織的な取組みが必要。 キ 管理職より職会時に各学期1回啓発(○) ク HP閲覧肯定値42%(○)更新の定期化や頻度向上とメルマガ発信とのコラボレーションが必要。 ケ 精査を進め26校に限定(◎) コ 家庭科部、吹奏楽部等中心に10回以上交流実施(○)周年事業と関連付けて地域社会への貢献度を更に高めていく。</p>